

山河 本部研究句会様(東京都・世田谷区) 2 3

滄短歌会 様(東京都・練馬市) 3 4

酒井弘司 様(神奈川県・相模原市) 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10

詠み人スクラブル(今年これを始めました!) 11 13

新潟ぶらり / 新潟県民会館 13

お客様の「リレーエッセイ」 針ヶ谷里三様 14

ニュースあれこれ 15

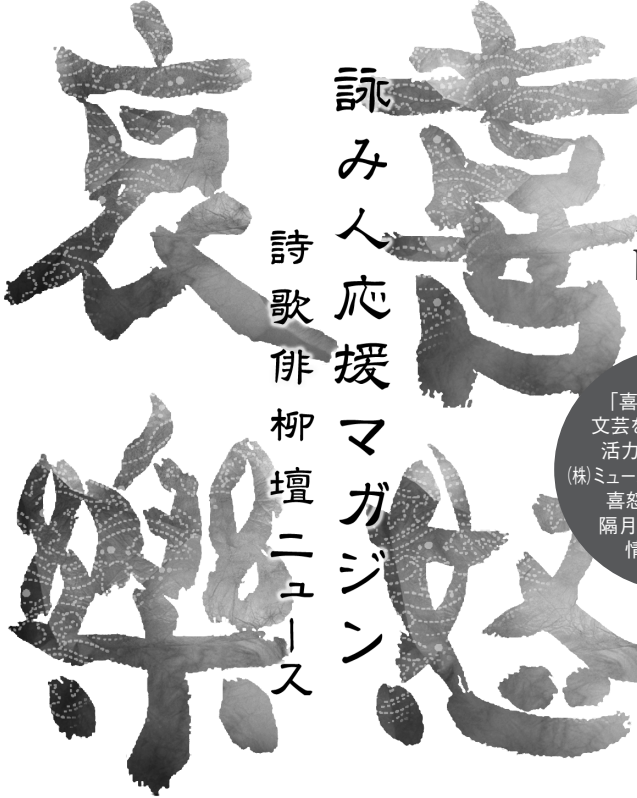
詠み人の「リレーエッセイ」 歌人 佐藤弓生様 16

4 April Vol.61

* 「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージーズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇 ニュース



温古知新⑮ 「源氏物語」6

さて、前回で栄華の絶頂を迎えた源氏。今回は新展開の第二部です。

病気を患い出家しようとする朱雀院は、愛娘女三宮を源氏に託すことを決心、源氏もそれを承諾してしまいます。二月、女三宮が六条院に降嫁しますが、女三宮のあまりの幼さに源氏は失望。また、紫上は思わぬ展開に悲しみを内に秘めて次第に出家を望むようになっていきました。

一方、女三宮の降嫁を切望していた柏木(内大臣の息子)は、女三宮に未練を残していました。三月末、六条院の蹴鞠の催しに訪れた柏木は、女三宮の姿を垣間見。それ以降、柏木はますます女三宮への思いを募らせていきます。

朱雀院の五十の賀に向け、源氏は女三宮に琴を教えます。年が明け正月に六条院で華やかな女楽が催されましたが、その晩、紫上が突然倒れてしまったのです。病状は好転せず、源氏は紫上と共に二条院に移って看病に付き添いました。

柏木は女三宮の姉女二宮(落葉宮)と結婚。しかし満足できず、源氏が紫上に付き添っている間に、女三宮と密通。後日、女三宮は懐妊。源氏は偶然柏木からの恋文を見つけ、事の真相に気付きます。柏木もそのことを知らされ罪におののき、さらに六条院で行われた試楽の際、源氏に痛烈な皮肉を言われて病に臥したのです。その後女三宮は無事男子(薫)を出産したものの

のすつかり弱り切り、心配して密かに訪れた朱雀院に願い出家。女三宮の出家を知った柏木は絶望、夕霧が心配して見舞いにやってくると、柏木はそれとなく源氏の不興を買ったことを告げ、夕霧からとりなしてほしいと頼みました。兄弟たちも皆悲しむ中で柏木はとうとう死去。

三月に薫の五十日の祝いが催され、薫を抱き上げた源氏はその容姿の美しさに柏木の面影を見て、怒りも失せ涙しました。一方夕霧は事の真相を気にしながら、柏木の遺言を守って未亡人となった落葉宮の元へ訪問。そのゆかしい暮らしぶりに次第に心惹かれていくのでした。

やがて、柏木の一周忌。源氏は薫の代わりに丁重な布施を贈ります。裏の事情を知らない柏木の父致仕太政大臣はそれに感謝し、悲しみを新たにするのでした。

秋の夕暮れ、夕霧は柏木の未亡人落葉宮を見舞います。その帰途、落葉の宮の母一条御息所は、柏木の形見の横笛を夕霧に贈りました。その夜、夢枕に柏木が立ち、笛を伝えたい人は他にないと夕霧に語ります。

後日、源氏のもとを訪れた夕霧。明石の女御の御子たちと無心に遊ぶ薫に柏木の面影を見ます。そして源氏に柏木の遺言と夢の話伝えるのですが、源氏は話をそらし、横笛を預かるとだけ言うのでした……。

今回は、第二部の中でも、第三十四帖「若菜」から三十六帖「横笛」までをお届けしました。

紫上の病気、柏木の密通そして死。物語はさらに加速していきます。次回、第二部の終結。果たして源氏は……!?! (古川久美子)

山河 本部研究句会

代表 松井国史様
(東京都・世田谷区)

まさに立春！という少し汗ばむほどの陽気の2月4日、世田谷区民会館で行われている「山河」の本部研究句会にお邪魔しました。

1時開始という句会は、暖かさもあつてか皆さん軽快にご参集。特に何も言わなくても、自然と出句、精記、文字の確認、用紙の回覧、書写という一連の所作がスムーズに進み、いつの間にもやら選句にうつっている。3句出句の8句選(うち特選1句)。松井代表の「みなさん、もうすぐで大晦日ですね」というのつけからユニークなご挨拶に続き、「では、陽子姉さん、非行少女お願ひします」という振りで本日の披講、芳賀さんが句を読み上げる。そして、一番点の入った句から合評がスタート。

本妻が留守で元気な冬の蠅 魁仙
代表／これ、誌上で全国に発表されちゃうの？ いやんなっちゃうなあ(笑)。



▲昭和24年小倉緑村創刊の隔月刊「山河」



▲喫ぎタバコのネックレスや個性的な指輪などおしゃれな松井代表

本妻というと古風な感じがするが、作者自身の照れや恥じらいを「冬の蠅」とすることで何とか体面を保っている、そんな句。

CMでこの逆パターンがあった／こういう句はつい採っちゃう。眼目はやはり本妻、第二夫人もいないくせに本妻だなんてぬけぬけと。そういうおかしみをおいただいた／いるかもわかんないよ(笑)／元気に言った割には冬の蠅と尻すばみ。作者の気持ちの投影か／俳句には毒があつていいと言われるが、そんなに毒も悪気もない。俳句のうえだから「本妻」だなんて言える。その稚氣、遊び心のおもしろさ。

代表／うちに帰って早速言ってみよう。「おい本妻はいるか？ なんて。張り倒されるか」(笑)。

狼狼を隠しきれない冬帽子 俊子
言い古されて目新しくはないが、句としてできています／すこすこしている殿方が見えてきそう／「狼狼を隠しきれない」がうまい。ただ、冬帽子で狼狼そのものを言っているから、メタファとして人間じゃない植物か何か、別の季語を持ってきた方がふくらみがでる。

巻き癖が心のこりの古暦 成子

「平凡だけの的確。古暦とは自分の過去。痛烈ではないが、心に残っている微妙な何かをうまくとらえている／暦を捨てる前に、過ぎた日を振り返ってふと感じたことか／心残りは言い古されているが、それを巻き癖としたところであつた。」

バーコードの人間として凍える 禾青

国民番号をつけられ、バーコード的な扱いを受けている現状を、凍えるという心象的な言葉でわかりやすく表現している／私たちをモノとして扱ったことで、寒々とした現代社会が浮かぶ／形容詞はおもしろいが、凍えるじゃそのまま、という気がした／自分をあんな種の規格化された人間としてとらえていて、そうだなと納得できる／「凍える」まで言わなくても、バーコードの人間で十分成立する／作者は凍える、と、結論づけたいんじゃないかな。悲哀のようなものが伝わってくる／中曾根康弘のような(笑)。

山門は江戸城へ向く鬼やらひ 幸治

本郷通りの山門は、全部江戸城を向いている。その確かな景の在り方／江戸城へ向くがきいている／権威の象徴である江戸城に対し、追従する、ひれ伏すという感じがよく出ていて、古典的だけど内容の深い句。

ぼたん雪初めて触れしもの濡らす 公一

「初めて触れし」がパッと目に入ってきた／俳句は現実を見ながらフィクションを詠い、もう一度現実に戻して



▲男女半々ずつで闊達な意見がボンボンと

くれるという効果がある。「初めて」とあえて言ったところや、本当は濡れないのに濡れるとオーバーに言ったところに、この句の叙情性がある。

余談ですが今水仙は真つ盛り 陽子

手紙の文句みたいだが、これも俳句なんだなーと／何だか知らないけど5人／桜前線のように知られていないが、しっかり咲いている水仙を余談だけど、と言っている。

雪解に遅れてしまう銀の靴 いく子

銀の靴、きれいじゃないですか。だから遅れてしまう／これは自分でストーリーを作りなさい、ということ。そういう意味で「銀の靴」の働きがいい。

本性を殺せずにいる花ヤツデ 國江
花ヤツデはすこみがあり、納得でき

東西讚礼顔笑



る句／「殺せず」に本性を押さえられない、という感じがでている／本性を殺せずにいるのは自分、その代役として花ヤツデは効果的な存在。あの植物のスタイルは、他の草花にくらべて擬人的な材料や暗喩として、うまくはまる。

大噓あと日当りの良い無聊 国史

そのものずばりで、他に何も無い／頭と最後に仰々しい言葉でガチッと押さえているが、真ん中の「日当りの良い」が実に俳句的。

雪国の女がすらり池上線 恵子

難しい句の間にあつて、すっきりしていたからいただいた／銀座線や丸の内線ではなく、ローカルな池上線だからいい／今日の木戸敦子さんへの挨拶句かな？／はい、そうです／敦子さん今日は？／大井町線できました(笑)

／今回はこの句を一番大きく色紙に書いてもらつて写真入りで掲載したらいいよ(笑)。

きさらぎやどう見ても托卵たくらんである 敏倅
托卵の意味を知らないのとれない句／卵の世話を他の個体に托する動物の習性のこと／この句は「山河」の三人の理論家がつていている／よくはわからないが、すごくひかれた／何が何に托卵かわからないが、「きさらぎ」が托卵のよう。2月は春みたいな冬みたいな、春を担保している如月の感じを言い当てる、うまいと思つた／これ敏倅さんがとつてないけど、どなたの句？／敏倅です(笑)。

他にも
春が来た胃カメラ何も探せずに 斗升
大正の席の一つ消え如月 和子
老いてなほ獣肉喰ふ性や猫柳 雅浩
寒椿二歩ひく癖の父に似し 栄子

★皆さん感じたことをあまり気を遣うことなく言葉にし(ているように見えました！)、会場は終始、笑いに包まれる。松井代表は皆を、場を、盛り立て、長老、寺井禾青さんがしめる。「山河」の作句作法は自由、個人尊重の作品発表・交流の場を志向する」というだけあつて、まさにそれが具現化された句会。その後も、昔ながらの中華食堂に場所を移し老若男女が好みのものをグビグビ干したり、チビチビやったり。その人が、そのままいられる、実にフラットで、楽しく学べる会でした。(木戸敦子)

滄短歌会

代表 中井昌一様

発行人 沢口芙美様

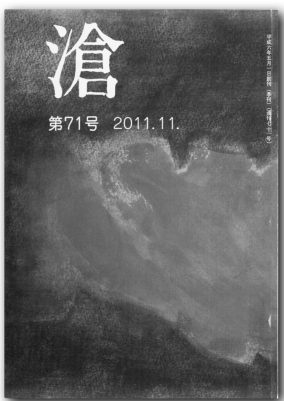
(東京都・練馬区)

3月18日、東京は四ツ谷駅からほど近い「ルノアール」会議室にて、毎月第三日曜日に開かれていた滄短歌会の歌会にお邪魔してきました。

本日はたまたま行事が重なり、いつもより少ない13名の参加。まずは無記名の32首より、3首を選び、高首歌より順番に批評します。

「じゃあ20分までに3首選んでください」という沢口さんの呼びかけで時計を見ると、なんとあと6分！なのに、皆さん涼しい顔で歌を吟味しています。司会は大洋和俊さん、そして小宮山久子さんが一通りすべての歌を読みあげ、各人の選を披露します。今日は、どうやら高首歌とそうでない歌が分かれた模様！。

足裏あなうらをくすぐるやうに沸きはじめ薪の匂におひが湯殿に籠る 平田利栄
感覚的な歌。今はなかなか薪の匂



▲平成6年5月創刊の季刊「滄」

をかげない。嗅覚で懐かしさと湯殿の雰囲気を感じ出している／被災地でこういう体験をしている方もいらつしやるのかとも思いながら読んだ／懐かしさとぬくもりでとつた／体験ではなく回想の歌だと思つた。

採らなかつた理由(以下)

■これは、水風呂に入っているの？「沸きはじめ」だから、水なわけでしょ？追い焚き？変な歌だなーと思つた／みんな懐かしさでとつたと思つたが、「湯殿」が疑問／郷愁に誘いかけてくるような歌で、点数が入ることは予想された。でも、詰めていくと、しつかりしているようで表現がフラフラしている。

みづからが機に織りたる木綿着て祖母は一生をはたらきとほす 岸上 展

一世代、二世代前の女性は、こういう生き方をしていたことが自然と伝わる／叙述的内容を端的に読み下したところがスッキリと歌を立ち上げられていく。／祖母の生き方、風貌も見えてくる。■「はたらきとほす」まで言うとは饒舌すぎる。読み手に想像させてほしい／「機に織りたる」以上に「みづからが」が説明的／「とほす」では意図が見えすぎる。木綿を着て野良に出た、くらいでおさえたほうがいい。



▲代表の中井昌一様



▲発行人の沢口秀美様

二駅を戻りホームの椅子の上に忘れし
われの手袋を見付く 本阿弥秀雄

語法的には適切ではないが、歌全体の
感覚がいいと思った／探し当てた思い
入れのある手袋、私もよくやるので身
につまされ、語法はともかく歌の心情
を評価した／日常のどこにでもありそ
うな内容。「見付く」で面会した、主
が来るのを待っていた、という気持ち
を詠いたかと思う／二駅が利してい
る。一駅では短く三駅では離れ過ぎ。
「われ」がいるかどうか、「忘れたる手
袋をみつく」くらいの方が二駅が生き
てくる。

墮ち残る棟瓦の雪は腰掛けて人ゐるご
とし夕あかね沁む 中井昌一

静かな情景が見えてとてもいい／情
景から伝わる静寂さの中にかすかな華
やかさを感じる。
■「墮ち」ではなく「落ち」でいい／「墮
ち残る」が「雪」ではなく「棟瓦」にか
かるようにとれるので、位置を変えた
方がすっきりする。

芽吹きたるいてふ若葉はさざなみに生
れしばかりの貝の形す 田中万紀子
イチヨウは芽吹いたばかりでもあの形

になつていてかわいい。それが貝みたいだ
ということに、なるほどな〜と。ただ、
季節が早すぎる／若葉のかわいらしさ
が下の句でうまく表現されている。

■比喩はうまいし、情景が感じられて
いいと思ったが「〜は〜す」という叙
述的な形に疑問を感じた／「たる」でい
い？／芽吹いた若葉だからいいと思う／
もう少し勢いがほしいけど「芽吹きし」
にすると字足らずになる／「さざなみ」
が繊細で美しすぎてとらなかつた。

春もまた黙禱のとき大空襲大震災ふ
かくわれを揺すりて 小宮山久子
「われを揺すりて」に共感した／一年
中黙禱だと私も感じていた。

■実感だろうが、付け足しという感じ
がする／「揺すりて」は衝撃を受けて
いることだと思いが、こういうふう
に流しているのか疑問。

だれひとり待ちては居らず 家の戸を開
くれば闇が身にふりかかる 大洋和俊
一人暮らしの方でしょう、難しいこ
とを言っているわけではないが「闇が身
にふりかかる」の表現にひかれた／孤
独感が実感として迫ってきてうまい。

■逆に「闇が身にふりかかる」が気
になつてとらなかつた。「闇が身をつむ
む」とか「闇に沈む」なら実感できるが、
闇が動的な感じがして共感できなかつた。
うたたねの我をなぶりてゆく猫の尻尾
のさきに春が灯れる 内野信子
「春が灯れる」が気になったが、以心
伝心で猫も承知している、という様子
がいい／「なぶりて」でからかつたり、

ひやかしたり、そういう猫の習性が自
然と出ていて、交流があたたかい。

■「春が灯れる」は、あたたかい感じ
がしたということ？よくわからない／
尻尾の動かし方で春の感じがしたので
は／雰囲気はわかるが、うたたねです
で春／のどかな春の気分、これくら
いいのかも／言い過ぎ、とこれだけ
分かりますね(笑)。

子のメール待ちつつ両の手につつむ湯呑
茶碗のお茶にあはき陽 牛山ゆう子
全体的にあたたかく、幸せな感じ
が伝わってくる／ゆったり待っている感
じがいい。

■「両の手につつむ」に「湯呑茶碗の
お茶にあはき陽」でしょ、そこまで言
わなくていい。よほど大きなお茶碗
なのかな(笑)。

遂にして鼻水垂りぬ雨水研設置終へた
る若き工夫は 田村美智代
初っ端に「遂にして」ではなく、他
の表現があるのでは？と思つたが、若
い工夫がなりふり構わず一所懸命仕事
をやり終えた、その必死さに熱いもの
を感じた／「垂りぬ」は「鼻水を垂る」
とか、「今垂れている」とか(笑)、一考
が必要／寒い中、細かいところをよく
見ているわけで、歌のおもしろさ、実
生活のおもしろさが伝わってきていい歌
だと思ふ。

雪やみて空明るめり 霏霏といふ他な
き降りの午前であつた 沢口秀美
満開の河津桜の並木にておもひもかけ
ず霞と出逢ふ 桑山則子

汚染して人間の退きたる暗き街一羽の
駝鳥の彷徨いはしる 山本和子
優しくも弥生と呼ばれる月にある十
日一日忘れ得ぬ日 橋詰保光
一年を経たる三月しづかにも冴ゆ淡
紅花うぐひすかぐら 伊藤泓子

★國學院大学出身の民俗学者・国文学
者、折口信夫(＝釈道空)と岡野弘彦
の流れをくむ「滄短歌会」は、母校の
後輩が多く、元もしくは現役の先生、
教授が多数いらつしました。代表の
中井さんと発行人の沢口さんをはじめ、
同年の方方もいらして、当時のままに
和気あいあい。上品な手弱女と思いき
や、こと歌に関しては、そしてその後
の懇親会でも(笑)、齒に衣させずピ
シッと直球勝負。老若男女の別なく、
一つの言葉・表現にこだわり、真摯に
研鑽を積む姿は、見ていて清々しいも
のでした。(木戸敦子)



▲毎月の例会は歌会と勉強会がある

東西讚礼顔笑



▲硬派な発言と抜け加減、実にいい具合の酒井様なのです

酒井弘司様 朱夏主宰

(神奈川県相模原市)

『朱夏』が100号の記念号を迎えたことを機に、旗揚げから17年間のアンソロジーとしてまとめられたのが『朱夏俳句選集』。主宰の酒井弘司様にお話を聞きしました。

平成6年8月に『伝統を現代に生かし、俳句に「深さ」と「新しさ」を求めろ』という理念を掲げ、昨年12月で100号を迎えました。創刊の契機は、昭和50年代に入ってから俳壇の様子を見て、考えることができました。この頃は「軽み」議論が盛んで、伝統俳句の機運が盛りあがっている時期でしたが、大方の作品は「俳」に傾き、伝承俳句といってもよい状況でした。俳句形式との緊張関係が見られず、一抹の寂しさがありました。そのような時期、小誌であっても旗印を鮮明にした新誌を出そうというところでの出発でした。そこで、新風(エスプリヌーボー)を旗印に創刊したのが『朱夏』。命名は、私が8月生まれで暑いのは大好きだからです。

俳句は15、6歳の頃から始め、高校の古文の時間にはたいいてい俳句や詩の本を読んでいました。当時は皆、投稿少年で言葉が唯一の財産でした。寺山修司さんとも交流が生まれ、高校の時には谷川俊太郎さんに「文章倶楽部」で詩をとってもらったこともありました。上京してからは、加藤楸邨さんの「寒雷」に入りましたが、「自鳴鐘」「函車」「零年」等で俳句を書いていました。そのあとです。金子兜太先生や森澄雄さんを指導者に俳句を勉強したのは。兜太先生が「海程」を創刊したときには同人で参加、初代の編集長でした。古い人間なんです(笑)。その後も、加藤郁乎さんなどと同人誌「ユウコン」で活動しました。

■有季定型ではない？
有季定型、限定したくないですね。季語は詩の言葉「ポエジー」。自ら季語を言葉として生み出してもいいですね。俳句を作るから俳人と言われますが、基本的には詩人。俳句という詩を書いている人間だと思っています。

■どんな毎日？
午前中は『朱夏』に関わる雑務やものを書く仕事をしています。私の本職は教師でしたが、教師と俳句を中心に書くこと、二足のわらじを長いこと履いてきました。昔、学校の宿直室に寺山修司さんが電話をくれて「ものが書けなくなるから早くやめろ」と言われましたが、やめることなく30代からライフワークはこれ(俳句)一本だと思つてやってきました。午後は近くの公園を一時間ほど歩きます。

■そこで句材を見つけるのですか？
見つけるのではなく、言葉として俳句の方がやってきてくれる(笑)。クリエティブにものを生み出す人間の一番大事なのは、地面に足をつけていること。土が命であり基本だと思つています。「氣」という言葉があります。靴下や靴を履いて歩くなんてよくない。裸足が一番いい。

■じゃあいつも裸足で？
いや、裸足でいるとしかられる(笑)。でも、畑を借りて野菜を作っています。足繁く通うと育ちが違うので、毎日で行きたいのですがなかなか…。今の風潮が一番いけないのは、プロセスが欠落していること。学校でいえば成績の結果だけで評価し、過程をあまり見ない。子育てはプロセスが大切で、過程さえ積み上げていけばいいのです。だからアナログが大事なんです。

■『朱夏』のめざすところは？
一人一人、表現をしようという人に合わせて、常に新しいものをめざしたい。私にとって俳句は三つの楽しさがあります。1つは俳縁。2つは俳句によって自分史が書けること。15、6歳の時に妹を見て作った句に「コスモスに佇む妹の歯が真白」があります。それを思い出すと、あの時、水玉模様のスカートと白いシャツを着て笑っていたなと、ありありと情景が浮かぶ。俳句にはそういう



▲100号を迎えた『朱夏』(隔月刊) 56名各々の俳句世界が広がる『朱夏俳句選集』

う力がありますね。3つ目は、言葉がまだ見ぬ一句を拓いていくという力。それは楽しいことです。ただ、俳句は言葉で作るんだと意識している人だけにわかることですがね。兜太先生から俳句のことは教わらなかった。すべて句会で学んだ。だから私も師匠と同じで、心の中では「Aさん、型にとられて俳句らしい俳句を作っているな」と思つても言いません。傷つけるから。誰もがプライドがあります。人を育てるにはけなしてはいけないですね。教師時代に得たことはそういうことです。

わが朱夏の詩は水のごと光るべし
立つて歩くことのさみしき月見草
春つかみ大道芸人転倒す
宇宙の人と隣あわせに春の駅
いちまいの若葉いちまいの宇宙
二歩跳んであしたがあるさ雀の子

★「普段怒ることはありませんか？」と正面切つて聞いてしまふほど、常に穏やかで「はははは」と柔和に笑われる酒井様。しかし、ソフトな外見に比し内面はハードで情熱的。育てていただいた諸先輩から託された「君たちが頑張らないとダメだよ」という言葉の重みを使命として、その約束を守るべく行動している。『朱夏俳句選集』は「どういう力量があるのか、ちよつと大きく言う」と世に問おうと出した句集「このこと。師匠の兜太先生からは「エンジンがかかってきたね、頑張りたまえ」との感想が寄せられたとか。「個性」と「新しさ」を追究し続けるこれだから、ますます楽しみだ。(木戸敦子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。

俳句

- 1 雪原の多情多恨を照らす月
木村軸(山形県)
- 2 雨垂れに変わる氷柱や昼近し
大橋恒次(新潟県)
- 3 熱気球ふわり二月の空を曳き
小野寺裕子(宮城県)
- 4 嫁ぐ子と暫し語らふ日向ぼこ
小松政雄(長野県)
- 5 歩を合はせ春を先取る笑顔かな
有坂馨園(福島県)
- 6 一生は文の間にあり清き薔薇
五十嵐睦博(新潟県)
- 7 原発の浜辺に出遇ふ春の蝶
橋本良子(埼玉県)
- 8 鮫鱈のどちらと云えば家康似
井上静夫(栃木県)
- 9 コンバスの先に楽園春を待つ
関根千恵(埼玉県)
- 10 よく咲いて点滴ほしい臥竜梅
佐瀬チエ子(神奈川県)
- 11 冬昊に色づく梢早春賦
佐野しづ子(愛知県)
- 12 仙人掌の花の赤くて燃えにけり
小井寒九郎(三重県)
- 13 あら玉のうすくれなるの舞衣
平山千江(岩手県)
- 14 拉致家族救う集いや風二月
原田かず多(千葉県)

- 15 唐梅や香り豊かに匂友招く
田野倉訓郎(東京都)
- 16 春の色町の巷に顔を出す
神作洸江(埼玉県)
- 17 寒に病む痒いところに嫁の手が
高野春枝(埼玉県)
- 18 春満月陶の狸と酌むとせむ
川口襄(埼玉県)
- 19 山一つ越せばふるさと春隣
三ツ木宗一(東京都)
- 20 日没の山巒曇む雪解富士
清まさじ(静岡県)
- 21 遠富士に向けて放水出初式
木村真澄(埼玉県)
- 22 アルプスに景雲が舞ふ春の風
須澤重雄(長野県)
- 23 凍川のほとりすつくと殉教碑
浅野信廣(宮城県)
- 24 卒業の答辞の触れる浅間山
山崎吉晴(群馬県)
- 25 小面の口角深き余寒かな
安部世衣子(埼玉県)
- 26 手鏡に春愁の顔しまひ込む
北村純一(神奈川県)
- 27 伐採の重機の音や小雪舞う
大場きよし(宮城県)
- 28 試し書きのインクの香り暖かし
袖山美峯(東京都)
- 29 余生とはいづからかしら日脚伸ぶ
井原毬子(東京都)
- 30 妻ありてこそその道楽朝寝せん
山東爺(北海道)
- 31 夢若ききのうに還す桜貝
星野三興(新潟県)
- 32 夕端居座り直して遠目くせ
美濃部紘三(新潟県)
- 33 春立つや明日旅立ちの靴磨く
今井岩夫(千葉県)

- 34 春よ来い津軽じよっぱり三味たたく
三津木俊幸(千葉県)
- 35 夫なくし心の闇に涙雨
福原喜恵子(群馬県)
- 36 海にすぐ始発終着雪の駅
菊池シュン(青森県)
- 37 一握の古米施し寒雀
梶鴻風(北海道)
- 38 船置かぬ被災の海に寒明くる
林克(福島県)
- 39 佐保姫や楽興日和演奏会
竹本美美子(新潟県)
- 40 テノールの半音下げの恋の猫
土谷敏雄(秋田県)
- 41 菜の花や辺りを払ふ長屋門
檜山とり子(東京都)
- 42 出初式太郎は海へ行つたきり
吉村充治(埼玉県)
- 43 病んでより妻に感謝を黄水仙
遠藤和彦(埼玉県)
- 44 生きもののごとき風紋春一番
田中昶(鳥取県)
- 45 あらし山真つ正面の日向ぼこ
炭崎博(滋賀県)
- 46 ざんぷざんぷ浮棧橋の百合合鷗
居原田連星(大阪府)
- 47 新しき橋をつないで探す春
棚橋麗未(東京都)
- 48 雪原に迷い込んだか馬一頭
柳澤京子(宮城県)
- 49 怪人がウイルス怯ゆ白マスク
千代田俳徒(東京都)
- 50 車椅子一つを囲み初句会
佐野和彦(静岡県)
- 51 梅開花ひと月遅れとなりにけり
小形さだ(東京都)
- 52 霜柱沈む足音急ぎたり
西條公雄(埼玉県)

- 53 春風やきまゝに今朝の庭渡る
栗原黎(群馬県)
- 54 妻明日掻く雪の嵩思い寝る
田島星景子(宮城県)
- 55 路味噌や母が歩んだかくし味
堅田秀子(東京都)
- 56 やつと来た光の春や梅開花
遊佐き久江(東京都)
- 57 露草や野辺の菩薩の裾かけに
磯山陽吉(東京都)
- 58 手袋が片方落ちてゐる余寒
大輪靖宏(神奈川県)
- 59 怖ごはと触れる薄水下校の子
紺谷睡花(東京都)
- 60 あなた夢のつぎきですか黄水仙
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 61 講堂の手話のゆるやか春立ちぬ
二瓶邦枝(埼玉県)
- 62 遠き日の母の声聞く雛の部屋
堀木和子(大阪府)
- 63 襟巻に言葉うづめて別れけり
渡辺嘉幸(東京都)
- 64 心地良き嬰の軒や雪積る
星一子(神奈川県)
- 65 ボランティア急募てふ被災地の寒さ
かな
長野光康(神奈川県)
- 66 元朝や赤いほっぺの女の子
石田義岡(山梨県)
- 67 晩年を愉しめと春立ちにけり
松嶋光秋(東京都)
- 68 子を叱る声堂々と冬天に
中嶋清子(佐賀県)
- 69 探梅や徘徊の如うろうろと
友松草薫(群馬県)
- 70 菜の花や巡礼に道問はれをり
宇田川正雄(埼玉県)
- 71 風花や消えゆくもの、美しく
阿部徳夫(宮城県)

- 72 チョーク一本わが教え子に夢を描き
阿部澄江(宮城県)
- 73 怨描きし書家変死す十三夜
加用章勝(千葉県)
- 74 狛犬の花を掠める花吹雪
忍正志(兵庫県)
- 75 夢のごと遺影ほゝむ寒の朝
山田幸代(兵庫県)
- 76 受験子や十字架背負ひ二浪せり
湯前このゑ(東京都)
- 77 豪雪を白髪あらわにいとみをり
藤井春三(埼玉県)
- 78 路味噌の小鉢に盛るや一トつまみ
杉原明子(静岡県)
- 79 路の臺土割つて出て穢れなし
関忠恕(静岡県)
- 80 ランドセル小さくなりて卒業期
早矢仕邦夫(愛知県)
- 81 この世をば竜馬に託し猿枕
上村元義(神奈川県)
- 82 鶯も桜も草も春の餅
山本直子(大阪府)
- 83 甘えん坊男の顔で入学す
長峰正晴(千葉県)
- 84 雪積みて白の深さや宿場町
木田亜津子(兵庫県)
- 85 新年度役員決り雪解急
有田裕子(北海道)
- 86 鞆や登校拒否をして三月
今井温子(奈良県)
- 87 ダム底にしづもる家郷さえびね蘭
関谷秀二(愛知県)
- 88 薄氷の動き出したる午後の池
乾久子(滋賀県)
- 89 四日はや子等の駆けゆく二学期
佐藤正子(福島県)
- 90 放射能心配しつつ落葉焚き
金子正宏(茨城県)
- 91 薄氷の余震にしばし揺れてをり
藤沢樹村(東京都)
- 92 まほろばは鬼も仲好く福は内
沢田稲花(山形県)
- 93 冬タイヤ替へて舌打寒戻る
大竹憲弥(新潟県)
- 94 追い焚きの出来ぬ仮設の春隣
鈴木与平(宮城県)
- 95 地蔵にもバレンタインデーチョコ一個
浜田蛙城(静岡県)
- 96 鴨去りて湖の静けさの戻りたり
名取美枝子(千葉県)
- 97 老いてなほ夢のふくらむ春帽子
道給一恵(埼玉県)
- 98 夜の雨の関屋分水春灯し
安部哲(新潟県)
- 99 孫たちに花もたせたり万愚節
長谷部喜代子(大阪府)
- 100 冴えかへる車輪の下のレールかな
岩永登茂子(大阪府)
- 101 陽炎や魚騒めく川奏で
油谷郷史(兵庫県)
- 102 川岸の朝日を掴む露の臺
神一男(静岡県)
- 103 風吹いて雀一羽も来ぬ寒さ
副島加代子(宮城県)
- 104 福島の酒かぐわしく春立つ日
中山日出子(大阪府)
- 105 みよちゃんの歌が流れる春の房
寺岡文生(静岡県)
- 106 冬の馬運命に耐へし瞳して
宮川昭男(高知県)
- 107 赤子泣く越後の郷の深雪かな
中西秀雄(東京都)
- 108 亡き母の候文の年賀状
大久保アヤ子(東京都)
- 109 盆梅の捻りに父の月日かな
野中信夫(東京都)
- 110 小説の一字の駅や春の海
緑川禎男(埼玉県)
- 111 生涯を貫く俳句暖かし
浅倉里水(千葉県)
- 112 総身を捉え離さぬ離の月
早乙女文子(埼玉県)
- 113 憂き世には久しきはなし花菜雨
川崎洋吉(福岡県)
- 114 一月や暈の目ほど日脚伸ぶ
山崎紀久江(福岡県)
- 115 生き死にに関はりのなき日向ぼこ
山崎ゆき(東京都)
- 116 ふくいくと梅の香に酔ふ八十路かな
内河邦久(東京都)
- 117 莖立ちの菜ばかり土間に投げ出され
吉田未灰(群馬県)
- 118 陽だまりに水仙の花あえかなる
青木ケン子(埼玉県)
- 119 八十七も不易とゆへり鶴還る
原田麦吹(埼玉県)
- 120 春の夢老いの想いは二人たび
河合ヤスエ(大阪府)
- 121 廻れ右みぎむけひだり日脚伸ぶ
植野順聞(大阪府)
- 122 寒梅の物怖じもせず凜と咲き
山本善輔(兵庫県)
- 123 恋猫や書齋の主にもくくれじ
古谷力(東京都)
- 124 流れ行く川面に浮葉水かな
堀田寿美子(北海道)
- 125 先人館に偉業偲べり梅真白
邑橋節夫(兵庫県)
- 126 ぼんやりとせし事もよし朧月
野村牟人(東京都)
- 127 干支の龍夢をはこびし春をまつ
杉村美保子(岩手県)
- 128 呼び止めど聞かず走る子日脚伸ぶ
椋本望生(大阪府)
- 129 独楽の志太郎はいつしか少年に
小島岳青(新潟県)
- 130 逆縁の運命身に沁む北風し
高橋まさ子(宮城県)
- 131 鬼の面はずし豆播く洒落男
布目雅之(埼玉県)
- 132 花冷えの糠床返し客待ちぬ
森川千英子(千葉県)
- 133 ひたひたと春の波寄す池の面
堀井和(神奈川県)
- 134 バレンタインチョコ五つ来て自信湧く
延原令岱(岡山県)
- 135 日は射せどがっちり根雪の居坐れる
岩橋千代子(北海道)
- 136 日光の展望台や雪景色
福田和子(東京都)
- 137 さらさらさらとさらさらと雪ふつてます
小林七重(新潟県)
- 138 春疾風赤いボルシエの男女かな
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 139 とりどりの色をこぼして毛糸編む
清水喜代子(岡山県)
- 140 本懐を捨てた命の帰り花
浦橋渴雪(兵庫県)
- 141 見頃なる天満宮の梅の磴
廣瀬喜代子(岡山県)
- 142 じゃんけんのグーからはじまる冬ミウ
らら
長島保子(東京都)
- 143 山彦の声に起こされ山笑ふ
羽根田明(神奈川県)
- 144 フクシマは福島ならず余寒哉
本間七窪子(山形県)
- 145 冬陽ざし全快願ふ握手かな
橋本まこと(栃木県)
- 146 頭首工音立て始む春の水
山本吉夫(三重県)
- 147 荒海を見て来し夜の風邪心地
伊藤玉枝(北海道)

投稿作品

- 148 今生の別れは一度龍の玉 佐藤茂三郎(千葉県)
- 149 雪暗れの受話器の向う気配あり 池田岬(埼玉県)
- 150 松の内今年の富士を見つめたり 畑克明(山梨県)
- 151 舞ふ雪を飽かず眺める窓辺かな 山岸伊久雄(東京都)
- 152 薬圃い香り漂よう寒牡丹 中村和弘(愛知県)
- 153 アナログの我にも届く梅便り 萬濃その子(神奈川県)
- 154 惜命の日々の手習ひ春惜しむ 津田忠彦(岡山県)
- 155 節分の舞台造りの音止みぬ 堀江藤子(東京都)
- 156 水底にさざ波うつる春日かな 今井勝子(新潟県)
- 157 ヒヤシンス悲しき時は泣きませぬ 湯浅芳郎(岡山県)
- 158 吟行地緑陰に繰る季歳時 小林敏宏(長野県)
- 159 おだやかな三月を行く子等の列 大谷伊佐男(埼玉県)
- 160 武蔵野の梅香ただよふ夕まぐれ 矢野絹枝(東京都)
- 161 太陽と月と地球としゃぼん玉 高杉杜詩花(北海道)
- 162 そしてねと切れぬ電話の女正月 磯部力(新潟県)
- 163 境内にふところありて囀れり 竹澤茂子(大阪府)
- 164 寒卵割りふたたびの決意かな 大窪美代子(大阪府)
- 165 神の手のごとく階風花す 長尾俊彦(香川県)
- 166 煮凝りや会話ほぐる箸の先 中田文子(大阪府)
- 167 みちのくは父母の古里春よ来い 針生清(千葉県)
- 168 防人の碑に片栗の花の紅 堀井酔人(茨城県)
- 169 もう少し生きておれそう春服買おう 村松知津子(大阪府)
- 170 一年生この頃彼は俺と言う 江端秀子(愛知県)
- 171 福は内豆まきをする鬼は外 五味田幸夫(神奈川県)
- 172 凍蝶の祈りの如し翅を閉じ 上谷すみゑ(神奈川県)
- 173 年輪に去年を刻み緑立つ 中野博夫(埼玉県)
- 174 落ちてなほ紅華やげる寒椿 秋谷静子(茨城県)
- 175 この地球どこかで戦火餅を焼く 西口東治(大阪府)
- 176 縄文の智慧継ぐ椎葉山火燃ゆ 村上克哉(東京都)
- 177 梅ふむ公家行列の牛車かな 花島陽子(東京都)
- 178 梅園や妻の先ゆく夫の杖 石井美智子(埼玉県)
- 179 春雨や背負の荷より赤パンツ 齊藤安弘(神奈川県)
- 180 冬ぬくし龍巻地獄の待つしじま 小林紀美子(東京都)
- 181 如月の行きつ戻りつ立ち止まり 大阿久雅子(東京都)
- 182 野仏や根雪の中に微笑みて 水落重武(新潟県)
- 183 湾上の橋から富士見ゆ花菜光 森白樹(東京都)
- 184 春の猫神も仏もなかりけり 有田俊一(埼玉県)
- 185 畳紙解く衣に真白き梅の花 高橋葉菜絵(東京都)
- 186 百万本のばらより好きな梅一輪 二本松よし子(群馬県)
- 187 湯たんぼの温みは妻の愛の肌 森崎榮久(岡山県)
- 188 たつぷりと時間をかけて雛飾る 佐藤信(神奈川県)
- 189 結界の柵に群がる雀の子 勝田久美(大阪府)
- 190 待ち受くる宅配食や喜寿の春 阿部至(埼玉県)
- 191 うつむきて窓辺に咲ける室の花 坪田勝秀(鹿児島県)
- 192 幸せを足し算してく露の臺 大塚徳子(埼玉県)
- 193 ひと握り菜の花くれし旅みやげ 倉岡依世(東京都)
- 194 建国日ズーゾー弁の体験談 富樫和子(山形県)
- 195 憩ひかし翡翠ポーズ撮影会 津布久信雄(東京都)
- 196 やらひたる鬼のけはひの真闇かな 澤雅子(大阪府)
- 197 留守番やスノーモンスタ―黄楊の門 菅井文男(新潟県)
- 198 幾星霜越え来しひいな出してみる 鈴木みえ(長野県)
- 199 花の種蒔いて楽しみ一つ増え 田中美智子(埼玉県)
- 200 長瀬をゆつくり下るるたつ船 青木涼子(埼玉県)
- 201 日脚伸ぶ出番待ちある旅靴 岡村君枝(茨城県)
- 202 待ちかねてようやくほころぶ紅梅花 岡弘子(埼玉県)
- 203 短日や村の時報のわらべ歌 高松ゆか(神奈川県)
- 204 露のとうみどりの力腕に盛る 井田由利子(宮城県)
- 205 これもまたスローライフよ日向ぼし 勢川直美(大阪府)
- 206 骨軋む大寒の夜の薄ぶとん 辻升人(東京都)
- 207 大の字の山にくつきり春來たる 北嶋八重(京都府)
- 208 薄氷を踏みしめ駆ける部活の子 近藤美好(新潟県)
- 209 大鷲の視点定まる大雪原 小山たけし(埼玉県)
- 210 立春を迎えし野面影もなし 阿部幸子(宮城県)
- 211 菜の緑深めて春の雪残る 服部八重子(東京都)
- 212 震度五を気づかふ吾子のメール来る アフリカからの見舞のことは 佐野澄江(山梨県)
- 213 こんな状態になっているなんて知らなかった日本は夢の国だったわ 梅澤鳳舞(埼玉県)
- 214 被災者を励ますといふ雨ニモマケズ長岡輝子の朗読を聴く 久本にい地(岡山県)
- 215 正月をすべてかたづけ二月に入り古梅の軸掛け生け込み終る 高須孝(愛知県)
- 216 夜具布団朝が来る度び重くなり万年床が懐かしくなり 齋藤忠弘(千葉県)
- 217 探せども怒りの歌の少なかれ喜と哀 樂に拉がれたるか 篠原三郎(静岡県)
- 218 としごとに卯月はめぐりくるものを 銀座のほかげひとりなくさむ 百花清(埼玉県)

短歌

- 219 平均寿命までは健やけく生きたしと
願ひつつ塩うすく白菜漬けたり
木暮珣子(群馬県)
- 220 オープンの前にしゃがみてのぞき見る
バレンタインを待つ背中
若月理依子(新潟県)
- 221 飲みほししウィスキー瓶に罌粟の朱
を挿し込みて夜をもてあましおり
北岡晃(兵庫県)
- 222 風花は詩片と見上げうくる手にふれ
て消えゆくまぼろしの歌
野木宗信(奈良県)
- 223 澄み渡る寒の夜空に満月の冷めたき
光万象を射る 凶子利明(兵庫県)
- 224 春風の中を帰りに妻と聞く高校合格
親のごとうれし 土屋喜雄(山梨県)
- 225 語りべの(ことばの)ごとく寄する波島の
学舎閉校になる 寒川靖子(香川県)
- 226 豪雪にもがき苦しむ寒村にやれやれ
やと春一番が 山本敏順(長野県)
- 227 古沼に白々と立つ杭の数鴨を見ぬ日
の風徒らに 佐伯はる(奈良県)
- 228 紅萩と野菊を手折りて奥津城心供へ
まいらす母の命日
黍嶋金平(愛知県)
- 229 戯れに椿のリース作つても幼馴染みは
あまりに遠き 高橋邦子(高知県)
- 230 哀楽の歌は心にしみて来る今年うた
わん身に沁みる詩を
安部英康(群馬県)
- 231 喜怒哀楽超えて津波の激しさを物語
るなり失せし家々
野別忠孝(埼玉県)
- 232 福島可悲悲惨と過ぎゆきて「怒怒
怒」「怒怒怒」と鼓動高鳴る
黒澤正行(福島県)
- 233 八十三年生きてきて未来政治塾に入
学(塾)したい 藤原昭三(滋賀県)
- 234 目力と言ふは俳優の特質か目にて演
ずる喜怒哀楽を 小暮昭司(群馬県)
- 235 もうもうの神社の御札載せてまた一
年をホームに我れは
今井忠一(東京都)
- 236 沈丁花風にこぼれて香る季節セーラー
服の菓立ち始まる
佐藤加代子(東京都)
- 237 飾らない土地の訛りは震災の本音染
み入り「負けねつちや句集」
西山悌三郎(高知県)
- 238 外来で即入院と告げられてとまどう
夫婦ボケ扱いに
音喜多千津子(埼玉県)
- 239 風は哭き月も凍てつく東北を思うこ
とだけ帰る術なく 村岡盛英(群馬県)
- 240 恙なく暮るる病後の老いひとり夕焼
け見たり鐘を聞いたり
久保和友(滋賀県)
- 241 中学の制服つけて胸に花卒業式の日
の晴れ姿 増田信雄(埼玉県)
- 242 卵かけごはんを真似て食べようか河
野裕子の家庭のように
桑原謙一(群馬県)
- 243 古稀過ぎて終日のたり歩みたしされ
ど許さぬ今日も終りぬ
辻忠城(東京都)
- 244 悲しみは乗り越えるものではなくて
何時かは忘れ消えて行くもの
吉野成行(愛知県)
- 245 傘寿とて昨日のつづき未来へと続く大
気の風に乘らねば
吉澤八千代(群馬県)
- 246 疲弊と言うブラックホールが棲む日
には介護の夫を無理に笑わす
濱崎祥子(鹿児島県)
- 247 心から溢れし景を紡ぎ織り言葉色づ
け煌めかす言人 小黒深雪(新潟県)
- 248 菓子袋捕りたる猿を基地に追う素早
し石碑の陰に光る目
山内寿子(京都府)
- 249 鉢植ゑの梅の開花に遅速あり何れも
いとほし育てし子なら
椎忠夫(神奈川県)
- 250 夕暮れに光る袈裟掛け急ぎ足二人の
女野道を歩む 武田東洋一(山梨県)
- 251 豪雪も春の陽射しにぐんと減り雪解
の川縁草萌え初むる
田中豊恵(新潟県)
- 252 身辺整理捨て切れぬ物溜めて老い
藤井北灯(福岡県)
- 253 あの人の褒める映画はつまらない
丸山芳夫(東京都)
- 254 愛犬が豆見つけては父小言
大橋絵代(千葉県)
- 255 黄泉からのお迎えまだか八十才
原田英一(千葉県)
- 256 被災地に何を為したか自眠党
橋本世紀男(東京都)
- 257 立春へ曾孫生まれるいい便り
大江秋月(兵庫県)
- 258 悪いこと秘書におしつけお知らん
守屋高雄(出羽県)
- 259 わが川柳読んで頭をひねりけり
南喜美子(千葉県)
- 260 無沙汰した電話に咳も入れ話し
石原岳(群馬県)
- 261 日本一仙台名物秋保のおはぎ
佐竹章(宮城県)
- 262 煮つめると多国語話す野菜たち
辻直子(東京都)
- 263 朝風ぎや信濃の浜に朱鷺は来り
工藤昌見(山形県)
- 264 甲子園女子も出たいよ高野連
大川聡(新潟県)
- 265 大寒が三寒四温いびり出し
清水高明(埼玉県)
- 266 新品の靴と出直す屋台骨
潮田春雄(千葉県)
- 267 どじょう鍋宣伝ほどの味でなし
宮崎正男(群馬県)
- 268 着ぶくれでなんで財布は秋のま、
佐伯セツ子(香川県)
- 269 一尺の氷柱に一尺の命
安田翔光(香川県)
- 270 鴨汁のメニュー横目に帰る鴨
森ふく(千葉県)
- 271 中流が何時迄建つか一戸建て
羽田桐柳(群馬県)
- 272 平服と言われ平服買いに行く
鈴木青古(茨城県)
- 273 お菓子屋の毘と分かっているも恋
岡本恵(茨城県)
- 274 雨しとど明日天気にしておくれ
近藤はつみ(福岡県)
- 275 独り身の庭荒れ果てて春遠し
戸田英夫(愛知県)
- 276 その時は背筋伸ばしてまた曲り
山崎一嘉(愛媛県)
- 277 退院へパンの膨らみさえ嬉し
竹村穂夫(大阪府)
- 278 白鳥も少子化なのか列うすれ
三浦博(岩手県)
- 279 就活はせまく遠い春の道
大岩歌子(岡山県)
- 280 故郷の明かりは過去をあたためる
安部龍太(山梨県)
- 281 早とちりから始まったこの苦労
鈴木章(新潟県)
- 282 祭日に国旗掲げず取る休暇
濱田イサオ(福岡県)

- 283 ド力雪に溜息ついて春を待つ 高松秋良(群馬県)
- 284 飲み薬体をこわしお付き合ひ 松田義登(福岡県)
- 285 微笑みに吸われるように出る本音 田澤宏(新潟県)
- 286 好きでしたなんて見事な振られ方 勢藤隆(群馬県)
- 287 友達と一歩ひかえて丸くゆく 諸橋文男(新潟県)
- 288 年金で目立たぬように生きようか 藤沢今日民(千葉県)
- 289 古い二人やたら元気でかましい 中林恵子(大阪府)
- 290 品書の松を注文見栄張り 増島淳隆(東京都)
- 291 探し物見つけた時のほくそ笑み 野田明夢(新潟県)
- 292 巣立ちの日親は心の中で泣き 青木日出男(群馬県)
- 293 のほほんと嘘も誠も本で知り 稲垣恵子(埼玉県)
- 294 あほやなあと笑ってくれた母を恋う 小山恵美子(大阪府)
- 295 意気込みを満面の笑みでかわす孫 奥那於子(大阪府)
- 296 ゴミ拾う姿はだれもみておらず 鈴木義雄(福島県)
- 297 神様の誤算責めてもいいですか 石山幸枝(新潟県)
- 298 五センチも降ればマヒする都市砂漠 藤沢健二(千葉県)
- 299 ルージュ引き嬉し恥ずかし初舞台 中嶋秀次郎(埼玉県)
- 300 孫が来て笑い袋の口あける 鏡たか子(山形県)

2月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たさんの回答をお寄せ頂きありがとうございます。選り抜いたその中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》 105 おむすびのように祖母ある端居かな

北村純一(神奈川県)



北村純一様

・慈しんでくれた祖母への眼差しがいい 浅野信 廣(宮城 県) ・おむすびのようにに亡き

祖母を思い出してしまった 仁藤ひろじ(埼玉県) ・おだやかなお祖母様の様子、又お祖母様に対する深い愛情が伝わってきます 堀木和子(大阪府) ・「おむすびのように」がいい。苦勞して年をとったかわいい祖母への愛が感じられる 宮川昭男(高知県) ・広い縁側で残夏の夕昏れを生垣の向うを通る人を眺めている祖母にこの家は明るい、泰然と坐る姿は人生の重しである 原田麦吹(埼玉県) ・よき日本がある。こんなおばあちゃんは今日本には居ない！ 小島岳青(新潟県) ・縁側にうづくまつている祖母、おむすびのようにどつり、貫録がでている高杉杜詩花(北海道) ・自分の姿を見ています 近藤美好(新潟県) ・88才で亡くなった祖母の姿と重なってなつかしく思い出しました 川嶋法子(東京都)

【自句自解】
「端居」には、もの思いにふける感覚があるかと存じます。私の拙句は、風呂上が

りの浴衣姿で祖母が団扇をあおぎながら縁側に座って夜の庭先を眺めていた様子をとらえたものです。背を少し丸めて、後ろから見るとまるで「おむすび」のようにユーモラスであり、正面から顔を見ていないのでもの思いにふけていたかどうかまでは分かりませんが、闇夜をしつと眺めていたのそのような雰囲気にも感じられました。

《川柳》 13 あの時のあの手の温くみ忘れない

守屋高雄(岩手県)

・どきどきしました。手の温みは消えないものです。居原田連星(大阪府) ・わかります。忘れられない手の温み 山崎一嘉(愛媛県) ・心ある握手はいつまでも残っています 松田義登(福岡県) ・作者の心あたたかな句、幸せが目に見えるようです 諸橋文男(新潟県) ・被災地へのボランティアの方々の支援の握手に励まされた 中嶋秀次郎(埼玉県) ほか

《俳句》 271 目標は百歳という初便り

早乙女文子(埼玉県)

・長寿社会になったが百寿は稀なり、目標は高く健やかに生きたし 大橋恒次(新潟県) ・長寿目出たし、私と同じ 今井岩夫(千葉県) ・健康で百歳まで生きられたらいいですね。元気を頂きました 棚橋麗未(東京都) ・満65才まで動めたんだから残り3分の1はゆつくりと生きたい 松尾正一(岩手県) ・「目標は百歳と云う」大きな便りが届いた。ちいさなことでクヨクヨするな背中を押されたような気になりました 佐藤正子(福島県) ・心意気が良い 藤沢樹村(東京都) ・心意気がすごい便り 湯浅芳郎(岡山県) ・母が93歳になり私は母

にそう言うてはげましています 石山幸枝(新潟県)

《短歌》 310 手の中にしゃぶり残しのせんべいをにぎりしままにおさな子眠る

桑原謙一(群馬県)

・無理なく自然にほほえましい幼な子の情景がとらえられている 木暮珣子(群馬県) ・子守りをした子供の頃を思い出します。可愛いねー。あどけない 佐伯セツ子(香川県) ・作者が愛しさをもち可愛い子(お孫さん?)をつくづくと見やつている 増田信雄(埼玉県) ・情景が浮び楽しい 辻忠城(東京都) ・五十年余前(昭和三十年前後か)、子や孫の姿が鮮明に思い出されました。(今は老人ばかりの日々ですが) 田中豊恵(新潟県) ・子供の無心さ自然のなり行き良いです 大鳥居牧子(東京都)

《他にも》 16 戦争ダメ言いつつ軍歌懐かしむ

森本遊笑(兵庫県)

- 30 一年の速さを笑う砂時計 菅原和子(茨城県)
- 38 悪筆じゃなくてワタシの新書体 鈴木青古(茨城県)
- 244 去年今年まばたきほどの早さかな 中野豊彦(東京都)
- 298 悲しみがわたしの横を通り抜け菜の花島に春は来ている 寒川靖子(香川県)
- 311 早古稀と過ごせし時も束の間に喜寿の新年小雪降りおり 田中豊恵(新潟県)

※今後ふるってご投稿をお願いいたします！尚、30を過ぎた作品を掲載できませんでしたことお詫び申し上げます。

前回のアンケート

Q.今年これを始めました!
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。



●健康ーウォーキング

- ・一万歩を目標に毎日歩く
橋本世紀男(東京都)
- ・従来の散歩の中に1/3ほどジョギングを加えて体力保持にがんばります
三津木俊幸(千葉県)
- ・プールで水中ウォーキング
高松秋良(群馬県)
- ・「ステップ台」運動始めました
佐藤加代子(東京都)
- ・朝の散歩中に晴れの日のは日の出を拝む、雨の日は室内用の自転車(ぎ)
竹澤茂子(大阪府)
- ・もう少し暖かくなったら万歩計を頼りに散歩をしようと思っています
阿部幸子(宮城県)
- ・一日に二キロウォーキング
藤田照代(岡山県)
- ・ウォーキング(目標五千歩)を始めました
増本和子(大阪府)
- ・駅から会社まで片道3キロありますが往復歩くことにしました
石川郁子(埼玉県)
- 健康ー心がけ
お酒の量を減らすこと
千代田俳徒(東京都)
- ・腹八分目
木田亜津子(兵庫県)
- ・起床時の血圧測定
濱田イサオ(福岡県)

●健康ースポーツ

- ・80歳の老人ですが自分で出来る事は自分でする
青木ケン子(埼玉県)
- ・健康チェックをはじめました
森川千英子(千葉県)
- 健康ートレーニングなど
筋肉トレーニング。今年から健康センターで鍛錬しています
神一男(静岡県)
- ・朝の寝床での乾布摩擦
緑川禎男(埼玉県)
- ・元旦より毎回百段以上の階段上下を昇り下りしています
内河邦久(東京都)
- ・川越市の幹旋によりスポーツセンターへ週一回マシンを使い運動を始めた
原田麦吹(埼玉県)
- ・深呼吸
矢野絹枝(東京都)
- 健康ー体操など
地域主催の元気アップ体操に参加し始めました
藤井春三(埼玉県)
- ・二十分間体操をしています。自由自在体を動かす事はいいですね
近藤はつみ(福岡県)
- ・スクワットを始めました。一日に百回を目標、三十回余りを三回位
今井温子(奈良県)
- ・体をやわらかく(血行)する運動
鈴木義雄(福島県)
- ・テレビ体操を始めてみました
鏡たか子(山形県)
- ・座って体操を始めました
高井逸代(岡山県)
- ・「五十音」の発生練習を朝夕食前に毎日続ける
萬濃その子(神奈川県)

●心がけ

- ・一歩前に(で)しゃばりではありませぬ)生きる心がけをもちたい
篠原三郎(静岡県)
- ・病んだことを教訓に健常者には分らないことを愛情を持って行動に対人に発信してゆけたらと光を保って生きてゆきます
高野春枝(埼玉県)
- ・人の前で話をする、話術、話の間とり方を勉強したいと心掛けている
石原岳(群馬県)
- ・「一日一善」を心掛けたいと思っております
澤雅子(大阪府)
- ・一日一日を大事にしたい
小山たけし(埼玉県)
- 詩歌
詩作を始めました
土谷敏雄(秋田県)
- ・新体詩の朗読
金子正宏(茨城県)
- ・詩吟、健康のため60過ぎての手習いで
長峰正晴(千葉県)
- ・川柳の新しい結社への入会
楠瀬美香(高知県)
- ・友達に誘われて川柳の会に…
出井静枝(三重県)
- ・短歌
田中美智子(埼玉県)
- ・心機一転古巣の句会に再入会
佐野しづ子(愛知県)
- ・吟行の一時間で十句をつくる
平山千江(岩手県)
- ・近くの句会(吟行)に出席すること
木村真澄(埼玉県)
- ・喜怒哀楽ノートに一日一句俳句と俳画を記録していくことが日々の楽しさとなりました
須澤重雄(長野県)
- ・一に俳句、二に俳句、俳句で生きる
山崎吉晴(群馬県)
- ・「二日一旬」を目指します
安田翔光(香川県)

- ・俳句教室三ヶ所に行き新しい句友が出来ました
堅田秀子(東京都)
- ・句楽部JM、今年から空いた月の第四土曜日に句会を開くことになった
仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・投稿作品に心ひかれ俳句学習をはじめることになりました
石田義岡(山梨県)
- ・喫茶店の奥を借りて新たな句会を開始「梶の葉焼津句会」
間島あきら(静岡県)
- ・老人クラブのお世話していますが集りの時「俳句」「川柳」を作って発表したいと思っております
杉村美保子(岩手県)
- ・一日一句をはじめました
小島岳青(新潟県)
- ・俳句番組をビデオに録画していたがDVDに録画を始めた
布目雅之(埼玉県)
- ・当方の句会、今年から隔日発刊で二十二名が韻読します
浦橋湯雪(兵庫県)
- ・歩き乍ら、一句考えています
増島淳隆(東京都)
- ・「八十の手習い」で俳句教室に電車、バスを乗り継いで一時間掛けて通っています
羽根田明(神奈川県)
- ・今年はずっと句作をしようか
畑克明(山梨県)
- ・釧路俳句連盟創立50周年、その前身である釧路市民俳句会から通算61年。今ワープロでその歴史をまとめている
高杉杜詩花(北海道)
- ・一日一句を志しています。いつまで続くことや
高橋葉菜絵(東京都)
- ・俳句の会に入りました
武田東洋一(山梨県)
- ・去年から俳句と社交ダンス始めました。老体に鞭をうっております。(脳をいためてます。いやめめているのかも?)
中井文代(奈良県)

A Q U E S T I O N N A I R E

- ・友達四人でミニ句会をしています
藤井碩子(山口県)
- ・今年こそ「心に残った作品」に入るよう努力したい
鈴木与平(宮城県)
- ・喜怒哀楽にお仲間入りさせて頂きました
大鳥居牧子(東京都)
- 研究・調査・勉強
・庄内地区の文学碑を調査しまとめて動き出したところです。最近加藤清正の子忠広の碑が出来たりで…。
工藤昌見(山形県)
- ・源氏物語 古文で読みはじめました。
あとはかきあみに熟中しています
福原喜恵子(群馬県)
- ・若山牧水の資料を集め研究しようとしています
土屋喜雄(山梨県)
- ・台湾茶同好会に入り歴史や茶葉のことを勉強しています
山田幸代(兵庫県)
- ・先人の句集「再読・三読」
福岡悟(東京都)
- ・経済の勉強。TPPだのギリシャ危機だの
安部哲(新潟県)
- ・歴史小説を読み尚歴史を勉強できれば良いかと考えています
有田俊一(埼玉県)
- 書
・お習字ではなく、筆で字を書くこと。自由！
佐藤信(神奈川県)
- ・書道です。(字が汚なく恥じています)
村松知津子(大阪府)
- ・小筆を使っていたはずら書き、手当り次第浮かぶ言葉や日常に生かす毛筆の書など
森ふく(千葉県)
- ・二月よりペン習字を始めました。がんばります
田中迪子(東京都)
- ・字の練習
山崎紀久江(福岡県)
- 日記・手帳
・日記の主たる内容に時間帯を記すことと致しました
有坂馨園(福島県)
- ・「手帳」を買った。計画・実行が一目で判るように
北岡晃(兵庫県)

- ・日記(家計簿も含む)をつけ始めました
阿部澄江(宮城県)
- ・「二〇一二年手帖」を日記帳代りにしてその日の出来事を書き込んでいます。
大谷伊佐男(埼玉県)
- ・三年連記の日記を使いました。(余命三年と思ひ、一日一日を大切にしよう)
齊藤安弘(神奈川県)
- ・こづかい帖を書きはじめました
石山幸枝(新潟県)
- ・(三年日記購入) 日記を書こうと思ひたちました。三日坊主にならぬ様にと
川嶋法子(東京都)
- ・三年日誌をつけることにしました
岩村昇(神奈川県)
- パソコン・ブログ・メール
・パソコンと格闘しています
星野三興(新潟県)
- ・パソコン習い始めました。この年(68歳)で難しいです
星一子(神奈川県)
- ・パソコンもう息子に頭下げたくありません。教室の先生やさしいです
音喜多千津子(埼玉県)
- ・新葉館出版の岡本恵川柳ブログ
岡本恵(茨城県)
- ・孫にメールを教えるもらいます
大場きよし(宮城県)
- ・次男坊の奥さんとメールのやりとりが多くなった。一月に赤ちゃんが生まれ
勢藤隆(群馬県)
- ・可愛いメール友人としてます。楽しいです
堀井醉人(茨城県)
- ラジオ
・目覚めが早くなり時間をもてあましていましたが、床のそばに携帯ラジオを置き「ラジオ深夜便」を聞くことにしました。楽しみが増えました
吉村充治(埼玉県)
- ・ラジオ深夜放送を楽しむ
湯浅芳郎(岡山県)

- 絵
・絵手紙
松嶋光秋(東京都)
- ・水彩画、四季を懐かしく愛でる為
加用章勝(千葉県)
- ・モノトーンの風趣に魅せられ、水墨画挑戦
大竹憲弥(新潟県)
- ・水彩画の練習(小学校の四年の時に熱中した。七十二年前です)
青木日出男(群馬県)
- ・絵手紙を習おうと思つて入門しましたが皆さん中々お上手に仕上げられるのでしょぼりです。俳画の何かの足しになるのかと思つたけど
吉野成行(愛知県)
- 書き写し
・朝日新聞の天声人語を書き写しており
堀井和(神奈川県)
- ・「喜怒哀楽」手帳に毎日二句の川柳又は短句を書き残すこと。空欄を利用したの「ショート・ショート」も
松田重信(埼玉県)
- ・「奥の細道」全文の書き写しを始めました
佐藤政實(埼玉県)
- 音楽
・小唄の作曲です
北村純一(神奈川県)
- ・「カラオケ」高二の孫との合唱
棚橋麗末(東京都)
- ・七十数年ぶりにショパンのピアノ練習曲に挑戦しています
堀木和子(大阪府)
- ・家庭内カラオケ
長野光康(神奈川県)
- ・ハーモニカ 秋の同窓会で合唱(バスの中)で伴奏をしたいからです。大丈夫かな？
増田信雄(埼玉県)
- ・バッグに入れて持ち歩けるハーモニカを始めました
青木涼子(埼玉県)
- 手芸
・手芸、吊るし雛作りなど
木暮珣子(群馬県)
- ・テディベアやふくろう作ってます
岩橋千代子(北海道)
- ・手芸を始めました
中田文字(大阪府)

- 料理
・バレンタインに娘の希望ではじめてケーキを作りました。次は何を作ろうか
若月理依子(新潟県)
- ・老々介護で食事の世話をしておりますが、具の沢山はあった、味噌汁に挑戦しております
美濃部紘三(新潟県)
- 花・畑
・四年ぶりで球根の植えかえを致します
佐野澄江(山梨県)
- ・庭を花いっぱいにする。周囲は雪樺、中は夏菊、秋菊、寒菊、芳香がたちこめる
相馬竹浪(新潟県)
- ・「生ゴミ」による畑の土作り
油谷郷史(兵庫県)
- ・新年より下駄箱の上に水仙ピラカンサ万両を活けるようにしました
小暮昭司(群馬県)
- ・昨年は見様見真似で畑作をしましたが。今年はじっくり勉強しながら畑作りをします
田中豊恵(新潟県)
- 整理
・断捨離有て新規無し 大橋恒次(新潟県)
- ・「断・捨・離」に心がけ真に大事なことに絞り、集中してくらすようにつとめています
邑橋節夫(兵庫県)
- ・去年から身辺整理を始めている。今年生命保険関係、趣味関係など少しづつ整理しています
濱崎祥子(鹿児島県)
- ・「断捨離」を実践。一つ買えば一つ捨てるをモットーに
勢川直美(大阪府)
- ・今までの自分の作品(俳句)の整理
田野井一夫(栃木県)
- 「やめる」
・始めたことはありませんが止めたことはありません。(喫煙) 遠藤和彦(埼玉県)
- ・「世代交代」息子に家長の座を譲ります
佐野和彦(静岡県)
- ・週二日休肝日を設けること
上村元義(神奈川県)

・多くの役から少しづつおりたいと思っ
ている 宮川昭男(高知県)
・週二回の休肝日(そして休肝日には、
最近ノンアルコールの飲物が出廻っている
ので、どれか好みに合うか種々、検討
中です) 鈴木章(新潟県)
・始めたというか生ビールをやめる事を
始めました。願掛けの為に 稲垣恵子(埼玉県)

●その他

・防災グッズを少々余分に買込んだこと
でしょうか 小野寺裕子(宮城県)
・解説ボランティア 文学(俳句)の勉
強のため 神作洗江(埼玉県)
・組紐 安部世衣子(埼玉県)
・朝寝坊(朝八時〜九時)。悪習慣について
困っています。出来れば途中から早起
きしたい 今井岩夫(千葉県)
・子猫との暮らしが始まりました 柳澤京子(宮城県)
・退院後にいろいろと考えてみたいと存じ
ます 田島星景子(宮城県)
・暴飲暴食(健康を取りもどしたもので
すから) 大輪靖宏(神奈川県)
・NHK、テレビの「平清盛」を一月か
十二月の「完」まで全部見ること 松尾正一(岩手県)
・数年前から正月には「前年の家計収支
のまとめ」と「前年の俳句のまとめ」
をやっている。出版した句集泡沫を何ん
としても売りたい 忍正志(兵庫県)
・秋には96才、晩酌を楽しむようになり
ました 関忠恕(静岡県)
・インターネット上で「鳩まめ川柳」とい
うコーナーに選者として協力開始 竹村穂夫(大阪府)
・朝寝坊(ベットの途中でいつまでもグズグ
ズとしてまったりする。シ・ア・ワ・
セ) 中西秀雄(東京都)
・囲碁教室の指導 山岸伊久雄(東京都)

・「わがまちを歩けば」のリーフレット作
成を目指しています 藤原昭三(滋賀県)
・及ばすながら世の中のとえ少しでも
お役に立てばと古切手を集めておりま
す。なかなかたまりません 延原令岱(岡山県)

・街歩き 自分の町で行っていない所が多い
ので 久保和友(滋賀県)
・朝起きたら、まず東北の復興を太陽に
向かって祈ること 針生清(千葉県)

・長らく御無沙汰した人を出来るだけ訪
ねることにしました 秋谷静子(茨城県)
・結社の句友とひと味違った味の連句を
始め、戸惑い乍ら疲れを癒やしている。 村上克哉(東京都)

・現役で働く夫は62才。今まで昼食は外
食だったので、頼まれてお弁当作っ
ています 二本松よし子(群馬県)
・(財)日本ゲートボール連合岡山の常任
理事三百名会員の東部支部長を拝命。
持病を押し切りガンバルぞ 森崎榮久(岡山県)

・今までみんなと一緒だった和紙ちぎり
絵、今年は皆さんの先頭にたつことに
なりました 吉澤八千代(群馬県)
・民謡舞踊 ゆつくりのリズムにのり全身
を動かすのでよい運動として楽しんで
いる 岡村君枝(茨城県)

・今迄積んで置いた俳句の本を全て読ん
で死のうと思ひ、毎晩読み耽っています。
辻升人(東京都)
・散策 五十嵐勝敏(新潟県)

・観世流の能を始めました。猫にいろいろ
思われているでしょう(漱石) 西野昭(長崎県)



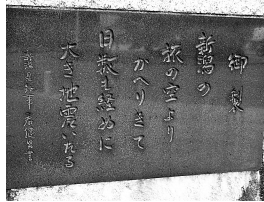
新潟ぶらり

★新潟県民会館

ずっと知らずにいた。信濃川のほと
りにある新潟県民会館は、一九六四
年に発生した新潟地震に対する、全
国からの義援金などを基につくられ
たものなのだという。新潟国体終了五
日後に起こったこの地震のことを記憶
されている方も多いことと思う。「復興
を記念し、県民が将来への発展に向か
う心よりどころとしての教育・文化
の発展並びに県民生活の向上に寄与
する施設」として建設された当会館。
一九六七年に落成式が執り行われ、
現在でも歴史ある公共ホールとして利
用されている。

会館の内外には多数のパブリック
アートがある。新潟地震に関するも
のも多い。

まずは昭和天皇が新潟地震に際し
て詠んだ歌の碑。新潟国体に際し親
臨した天皇は、帰京後すぐに起きた
地震に震憂し次のように詠まれた。



新潟の旅の空よりかへりきて
日数も経ぬに大き地震いたる

そして会館横には、坂口献吉の詩
碑がある。

地上は 美しき哉 心ひとつで
坂口献吉は坂口安吾の兄で、新聞
や放送事業などの経営に当たり手腕
を発揮した実業家。新潟地震で倒壊
した新潟にこそ、美術博物館を併設
し大ホールをもつ、県民会館の建築が
必要だと奔走し、新潟の文化の復興、
発展に大きく貢献したという。



碑文は、坂口が常に書いていた
色紙から作成された

「心ひとつで」の結びに、これでも
か！というくらい前向きな力が詰まっ
ている。過去からもエネルギーをも
らって、今ここに私たちがいるのだ。
碑の裏には、氏の人となり伝えるこ
とばが整然とした文字で刻まれてい
た。(菅真理子)



左の白いボールの先に、地震からの復興の
象徴・フェニックス(不死鳥)が羽ばたいている。

■新潟県民会館
住/〒951-8132 新潟市中央区
一番堀通町 3-13
☎/025-246-8400

●お客様の「リレーエッセイ」

子規の俳句に対する真骨頂

針ヶ谷里三
(東京都・西東京市)

武蔵野大学元学長の大河内昭爾先生から、根岸芋坂の羽二重団子を戴いた。団子はあんこ醤油の二種類で大変おいしかった。中に入っていた「団子の葉」を何気なく見たところ団子の由来が書いてあった。それは、「文政二年根岸の里の音無川のほとりで、藤の木茶屋を開業し、以来『きめこまかく羽二重の様だ』と近隣の大評判となり、以来六代、百六十年も江戸の風味と面影をうけついでいる」と書いてあった。表紙は「藤の木茶屋」が書かれ、店のたたずまい、往來の飛脚、かご、馬槍をもった武士、伊勢参り夫婦づれなどが墨で書かれ江戸時代を髣髴とさせた。私はこの絵にひきつけられ「年賀状」にしようと思った。

根岸はそう遠くないので念のため一度見ておこうとこの店にかけた。羽二重団子は、荒川区東日暮里五―五四―三

にあり、鉄筋五階建てで、一階が団子工場、店、二階が貸席であり、店から硝子越しに庭が見渡しでき、滝が真中に作られ、大名竹、松、つつじ、季節の草花等が植えられ、池に真鯉、緋鯉、つり橋などを配しながら大名屋敷を思わせるものであった。店に入り「アマ

カラ」の団子を戴いたがさすが老舗の「品」抜群においしかった。店のパンフを見たところ、新聞「日本」正岡子規の「道灌山」に「ここに石橋ありて芋坂団子の店あり。繁昌いつに変わらず、店の中に十人ばかり腰かけて喰いをり、店の外には女二人イみ出て出来るのを待つ。根岸の琴の鳴らぬ日はありとも、この店に人待たぬ時はあらず、戯れに俚歌を作る」とあり、

芋坂も団子も月のゆかりかな

の子規の句が添えられていた。店の人の話では「子規の家は近かったので生前よく店に食べに来た」とのことであった。

早速平成二十年の年賀状にこの「藤の木茶屋」の墨絵を複写し

子規に会ふ藤の木茶屋や昼寝覚め 里三

の句を添え、例年どおり六百通の賀状をだした。ところが新年早々大河内先生の講座を一緒に受けている小林千秋氏から賀状で、「新年早々子規に因む句をいただき有難うございませう。」として添書で「家内の祖父が信州更級で『梅塘』と号して子規先生と親しかったと聞いており、その資料がありましたので別便で送ります」とのことであった。別便でといたのは、「子規先生を訪ふ」という題名で、信州更級、梅塘（宮崎国太郎）とあった。内容は明治三十五年十二月二十七日「ホトトギス」第六巻第四号「子規追悼集」に掲載されたものである。

梅塘先生は、明治元年日原村の鹿道で生まれ成長して明治十五年上京、吉川高尚の「寄傲義塾」に入り漢学、詩、和歌を習った。明治

十八年長野県巡査を拝命、このあと二十年から小学校教員となる。子弟の教育を一身に集めたが、先生の磊落さが教育界に受け入れられず四十二年に教員を辞した。教え子に対する愛情は人一倍強く心温るエピソードは数限りない。特に元参議院議員、青木一男先生との師弟愛は格別で、映画化されたことがある。

先生は犀峽俳壇の始祖にとどまらず、現代俳句を唱導して俳誌「ホトトギス」の信濃の重鎮であり、その交友は広く、足跡は赫々たるものがある。ことに子規との交流で「花鳥諷詠」「写生」を基調とする文芸的俳句を修得した。当時の句に、

古籬や子規が病いの枕元

がある。八十九歳で大往生を遂げた。昭和十二年門下生により鹿道の生家の近くに、

天が下に大河流れり花曇り

の句碑が建立され、更に昭和二十七年青木先生の揮毫による「頌徳碑」が碑のそばに建立された。

私はこの稿を編むについて、明治のはじめ交通機関もよくない信濃の山奥から犀峽俳壇の始祖、梅塘が頭を低くして子規に教えを乞うため訪れたことに、梅塘の俳句に対する並々ならぬ執念を見た。又子規はこの訪問を受けた幾ばくもない明治三十五年九月十九日に亡くなったことから、病床にありながら二時間にわたりこんこんと俳句の真髓にふれた「己の俳句を完成させることこそ真の俳道」であると論じたことに、子規の俳句革新の真骨頂を見た思いがした。

滋味しみじみ◎◎◎

父との思い出♡

うめさわかよこ様 (東京都・町田市)

マイペースで時間の読めない父。
私達子供が小さかった頃、
日曜日は父がお昼を作ってくれた。
チャーハンの時には、もう夕方!?
おなかかベコベコ…
ラーメンの時には防腐剤入り!?
試食をした父が吐いて即廃棄。
それからというも朝から家族でパウンドケーキ作り。
でき上がりは、ちょうどおやつに♪



かけ事も女遊びも借金もせず、
日曜日毎に家族サービスの父。
たまには、ゴルフにとっても
家族連れ OK でないとお断りの父。
病気の時の葛湯はすぐに作ってくれた父よ。
父のが一番おいしく、なつかしい味♡

食に関するミニエッセイを募集中

先回の10月号で初お目見えした『滋味しみじみ』のコーナー。忘れられないあの時、あの人と食べた味、自慢の郷土料理、記憶に封印されたあの味…等、とっておきのエッセイをお寄せください。採用の可否については、誠に勝手ながら弊社に一任させていただきますようお願いいたします。400～500字の原稿をP16 下記の住所宛てに封書かメールにてお送りください。おいしいお話、お待ちしております♪

「喜怒哀楽」9人目のメンバーになりませんか!

いつも「喜怒哀楽」にご協力をいただきありがとうございます。2002年4月より「詠み人応援マガジン」と銘打ち、新潟発信、お客さまとの双方向の情報誌をめざし、この4月号より11年目に入りました。ひとえに皆さまのご愛顧・ご支援のおかげと、改めて感謝申し上げます。

そこで、新たな一歩として、読者の皆さまと一緒にこの「喜怒哀楽」を育てていきたいと思っています。つきましては、皆さまのお力を「喜怒哀楽」にご提供いただけませんか。同封のアンケートに、皆さまが得意なこと、これなら手伝えるよ!という分野をお書きいただけましたら幸いです。

三人寄れば文殊の知恵。それが5人、10人となれば…!ワクワクしてきます。ぜひ、一緒に楽しい紙面づくりにご参加ください。少しでも皆さまの活力の源として「喜怒哀楽」がその一端を担えましたら、うれしい限りです。

●例えば…

- 校正は任せて
- 文字入力はやいよ
- 資金面でタンス預金から工面しよう
- 各地を回った紀行文を提供できるよ
- 選句ならやるよ
- 新企画にこんなアイディアは?
- イラスト書けるよ
- 書の腕前は一級品!…etc.



ポストカード好評発売中!

毎回ご好評をいただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各シーズン)。今回は春バージョンより「タンポポ」を同封させていただきました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手と一緒に封書にてお申し込みください。**



スタッフの一言

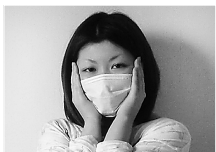
Q. 今年これを始めました!

木戸 敦子



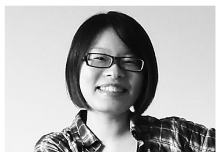
友人が100年後の新潟をかつてのような国際都市に!と英語教育の会社を起業し月曜朝7時からの講座に参加。応援するサクラなので、どなたかぜひ!そして私と交代しませんか(笑)。

古川 久美子



早起き! ……自主的かどうかはさておき(笑)、やっぱり早起きすると、1日のスタートが気持ちよく切れますね。日曜日は「趣味の園●」見ちゃってます(笑)。

菅 真理子



縁あって、とある会に寄せさせていただくことに! 福島湯のお散歩と、朝ご飯を楽しむ「かたごはん」の会です。湯にはまりそうな予感(笑)

吉田 瞳



〈育休復帰しました〉

夕食食材宅配のヨシケイさん。子育て主婦にはありがたい味方です! 実はマンネリ打破自己改革なんです。毎日料理の勉強にもなり家族が夕食を楽しみにしてくれています♪

上村 真智子



「源氏物語」、円地文子、瀬戸内寂聴、田辺聖子、(新源氏物語)、林真理子(六条御安所 源氏語り)読み比べています。読者の方で原文を読んだという方がいらして頭が上がりません。

金子 ゆり子



まだ始めてはいませんが、以前から川柳を川柳をと思いつきながら行動に移していきなかつたので、いま会を探しているところです。また地元元の公民館に行ってみようと思います。

石山 由希子



日記⇒続かず(汗)。家計簿⇒レシートが財布にあふれ、嫌になって廃棄(泣)。何も始めていない…。まずは心頭滅却すれば何とやら、落ち着いて過ごす?ことを始めます。

山田 千秋



社内のことなのですが、今年から私の業務日誌も手書きになりました。特に近頃は、記入したあとFさんがコメントをつけてくださるので、張り合いがあります。ありがとうございます。



詠み人の『リレーエッセイ』

春は楽しい、誰がなんと言おうと 佐藤弓生

春ですね。春は楽しい季節ということになっています。卒業・異動などにもなう別れとか、花粉症とか、楽しいことばかりではもちろんないけれど、それでも今春はとりわけ、東日本大震災の被災者の方々にすこしでも喜ばしいこと、楽しいことがありますよう。

上海は銀の音おんかな響かせてはるになつたら落ちあふ手筈 紀野 恵

春は心躍る季節であるという前提にもとづいた一首。〈落ちあふ〉の一語から、あいびき、はたまたスパイ活動? と映画的空想が発動します。動詞つてすこい。〈銀の音〉は独特の表現ですが、「しゃんはい」という地名に、鈴の音のようなイメージがあつたのでしよう。

まだ短歌となじみのなかつたころ、短歌はおもに失恋、病氣、死別をあつかうジャンルだとなぜか思いこんでいたので、この歌には新鮮な驚きをおぼえました。こんなに「明るいだけ」の歌があつてもいいんだ、と。

短歌は短い歌といながらけつこう長いので(三十一音はルナールの蛇のように「長すぎる」と思います)、このように感情のシンプルな歌は、案外珍しいかもしれません。



前回より初の「歌人」としてご登場いただいた佐藤弓生様。俳句と違って短歌は「言わなくてもいいことを言う」詩型ということに、なるほど!と思つた方も多くいらっしゃるようです。5月からは都内でイベントも開催されますので、ぜひこの機会に!!(上記プロフィール参照)

神様は小さな球を愛された トランペットにたまつた滴しずく 千葉 聡

楽器が出てくるわりに、しずかな印象の歌です。演奏そのものより、余韻に注目しているからでしょう。〈滴〉は、演奏者の力演、その息づかいの跡を物語っています。

千葉さんの歌集『そこにある光と傷と忘れもの』では、この歌につづいて〈コンクールは「銅」に終わって月あかり街のあかりの隅で泣く子ら〉とあり、学生の部活動の情景がうかがわれます。楽しい活動のおりに、苦しい練習、苦い結果もある。そうした陰影をも内に籠めて〈球〉というまつたき喜びは存在する——と読みました。

観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生ひとひ 栗本京子

歌人のあいだでは有名な相聞歌ですが、いずれ「あの日は楽しかった」と思うだろうという予兆とも、後年なつかしく思い出している回想とも解釈できて、意外と複雑。

短歌をつくらぬ人に教えたなら、演歌みたいだねえとのコメントがあり、びっくりしました。なるほど(一生)にこぶしをきかせた絶唱の感、ありますね。どこか泣きたい気持ちになるのはそのせいかな……。

今回は「泣きたい気持ち」の歌などを。

2012. 4. vol.61 (2012年4月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
喜悲哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

編集後記

生まれたときはベビーベッドという名の柵の中、子犬よろしく何もできなかったはずなのに、次第にその手綱をのばし、とうとうその綱を外して娘は上京した。小学校の初めての参観日、授業が終ってグラウンドに飛び出す子等。その中で一人目に涙をためこちちを見て、周りを気にしながらにじり寄って私の袖をつかみ「帰らないで」と言っていた娘。あれから13年。昨日はもう「帰らないで」とは言わなかった。今まで毎日、たくさん笑いをありがとう。「ダメじゃん、そんな親じゃがっかりじゃん」と言われないよう、母も頑張る。そう、誰がなんと言おうと春は楽しい!!私もそう信じてる。(木戸敦子)